

輸入検疫で発見された主な病虫害

昭和54年に、輸入検査申請のあった植物類は、627,657件にのぼり、このうち病虫害付着のため消毒措置がとられたものは175,315件、廃棄処分となったものは10,402件であった。また、この他輸入禁止植物等が46,978件あり、これらは全て廃棄処分した。こうした、輸入植物の検疫では、我が国が侵入を警戒している病虫害がしばしば発見されており、主なものを挙げると別表のとおりである。この他、輸入禁止対象病虫害となっているミカンコミバエが80回、ウリミバエが8回、チチュウカイミバエが3回それぞれ発見されたが、これらは、ほとんどが空港で旅客の携帯する果実類から発見されたものである。

発 見 病 害 虫	寄主植物別発見回数	仕出国別発見回数
(害 虫)		
<i>Anastrepha fraterculus</i> (ミナミアメリカミバエ)	マンゴウ(1)	メキシコ(1)
<i>Anarsia lineatella</i> (モモキバガ)	アンズ(1)	アメリカ(1)
<i>Dacus frauenfeldi</i> (ミバエの一種)	モモタマナ(1)	パプアニューギニア(1)
<i>Diabrotica undecimpunctata</i> (ジユウイチホシウリハムシ)	チシャ(3)	アメリカ(3)
<i>Heliotis virescens</i> (メイガの一種)	カボチャ(1)	メキシコ(1)
<i>Heliotis zea</i> (アメリカタバコガ)	サヤインゲン(1)	アメリカ(1)
<i>Hypera postica</i> (アルファルファノウムシ)	ザクロ(10) その他(4)	アメリカ(14)
<i>Lygus hesperus</i> (メクワカメムシの一種)	チシャ(3)	アメリカ(3)
(病 菌)		
<i>Colletotrichum capsici</i> (ウイルス)	トウガラシ種子(1)	アメリカ(1)
Strawberry leafroll virus	オランダイチゴ(1)	アメリカ(1)
Raspberry ringspot virus	キイチゴ(1)	アメリカ(1)
Gooseberry vein banding virus	スグリ(1)	フランス(1)

海外のニュース

Sorghum Downy Mildew のアメリカにおける発生と防除

ソルガムやトウモロコシの重要病害であるべと病の一種 *Peronosclerospora sorghi* (Weston & Upall) C.G.Shaw は、1907年にインドで最初に発見され、その後、アフリカ、アジア、南アメリカ等で大きな被害をもたらしている。本病がアメリカ合衆国で発見されたのは、1961年(テキサス州)のことである。以下、アメリカにおける本病に関する発生と防除についてAPSの報告を紹介する。

ソルガムやトウモロコシ等の重要病害の侵入に備え、1916年に公布されていた Corn Disease Quarantine No.24(検疫令24号)が、45年目に初めて発動され、防除が行われた。しかし、本病は隣接の州から州へと拡大北上し、現在、トウモロコシ主産地であるケンタッキー、イリノイ、ネブラスカなど16州にまん延している。本病の発生又は伝播は、卵胞子の風による飛散、罹病植物上の分生胞子による分散、菌糸の付着した種子などによるところが大きく、特に、卵胞子は3年間も生存することから、防除は困難を極めている。防除法としては、全身感染しない抵抗性品種の育成、播種時期や播種量

など栽培条件の変更による被害の軽減、伝染源の根絶等についての検討が行われている。また、農薬では、metalaxyle が有効で、テキサス州では、卵胞子、分生胞子の防除に効果が認められた。

トウモロコシの主産地に侵入し、発生をみているわけであるが、卵胞子の越冬方法や卵胞子を形成する寄主植物が明らかにされたことにより、被害防止が可能となった。特に、メイズでは、卵胞子はわずかしかな形成しないので、これらの生産地は大きな被害をまぬがれている。

以上、取りまとめてみると、抵抗性品種の育成、栽培上の処置、有効な農薬散布等の総合防除によって、本病の激発と被害を防いでいる。

※ Plant Disease Vol.64, No.10, 1980 (病菌課, 末次哲雄)

発 行 所 横 浜 植 物 防 疫 所
〒231 横浜市中区北中通5-57
横浜農林水産合同庁舎
☎045(211)2299
発 行 人 森 武 雄
編集責任者 井 上 亨
印 刷 所 川口印刷工業株式会社東京工場
〒114 東京都北区昭和町3-8-2
☎(894)0101